

1年で22回の週末のドキドキ

放射線技術科支部 荒尾 信一

フリーなテーマでリレーエッセイをということなので、同窓会から離れて思いっきり気楽に書かせてもらいます。

さて、私が1年間に22回、週末にドキドキすることって何でしょう？ かれこれ20年間毎年、ドキドキしてます(最初のころは17回でしたけど…)。奥さんとのデート？ いえいえ、実は年間22回という回数は日本中央競馬会(JRA)のGrade I (G I)レースの数なのです。

では、同じドキドキなら、なぜ競輪や競艇ではなくて「Horse Racing-競馬-」なのかと考えると予想のパラメータの多彩さと馬自身に対する思い入れを強く持てるからかもしれません。皆さん、“オルフェーヴル”っていう競走馬を知っていますか。この馬は2011年の日本競馬協会(JRA)の年度代表馬であり、最優秀3歳牡馬です。2011年の彼(あえて”彼”と書かせてもらいます)の成績は牡馬(♂)の3歳時だけに出走できるクラシックG Iレース(皐月賞、日本ダービー、菊花賞)を全て優勝して三冠馬となり(三冠馬は近代日本競馬史150年の間でたった7頭)、年末のファン投票で選出される古馬を含めたG Iレースの有馬記念にも優勝しました。(三冠馬となった3歳時の有馬記念制覇は3頭目) つまり、彼は歴史的な名馬となる礎をきっちり築き、その瞬間を私が見ることを可能にしてくれました。今年は海外へ向けて更なる伝説を作り上げるのではないかと期待しています。さらにオルフェーヴルの兄の”ドリームジャーニー (G Iレース3勝)”、父の”ステイゴールド”、母の”オリエンタルアート”、母父の”メジロマックイー”どの馬にも私の中には思い出があり、また、兄弟そろって主戦騎手は池添謙一騎手、両馬とも池江厩舎所属という点にもドラマを感じてしまいます。また、思い入れがある馬は”オルフェーヴル”だけではなく、そのライバル達も今年に入って実績を積んで虎視眈々とトップを狙っているというエキサイティングな状況です。(この手の話をたどっていくとキリがないので、このあたりで終わりにしますね。)

一般的に「Horse Racing-競馬-」のイメージはギャンブル(賭博)色が強いかもしれませんが。金銭が掛かると更にドキドキが強くなるのは否めませんが、自分の考えで日常から遠く離れた場所で起こるであろうことを予想する楽しみを堪能し、予想が当たったときの高揚感は日常の生活ではなかなか味わえないものだと思います。つまり、私はレース当日よりもレース前日やレース直前までのあれこれ(血統、騎手、展開、馬場状態、天候、馬のここまでの戦跡・現在の状態・脚質、もちろんその馬に対する思い入れetc.)と検討することが楽しく、目の前で繰り広げられる数分間のドラマをこの目に焼き付けることが楽しいのです。検討した結果は20年来の馬友と情報交換し、お互いの持論で花を咲かせます。ちなみにここ2年の予想結果は44レース中21的中(的中率は約48%)で、自分ではなかなかのものだと思っています。さあ、今年も2月を皮切りに22回のドキドキがスタートします。ロマンと最高のドキドキにわくわくしながら筆を置きたいと思っています。



次回は副会長の坪井裕子さんにバトンを渡したいと思います。ヨロシクお願いします。